



# 第5回 世界ITS会議 '98 ソウルに参加して

## 1. はじめに

平成10年10月12日(月)～16日(金)、韓国ソウル市において第5回ITS世界会議が開催された。

1994年から開始された本会議は、フランス大会から始まり、日本、アメリカ、ドイツ、韓国と引継がれ、ソウル大会には、過去最高の50カ国、約3,500名が参加し、日本からは890名の参加者があった。

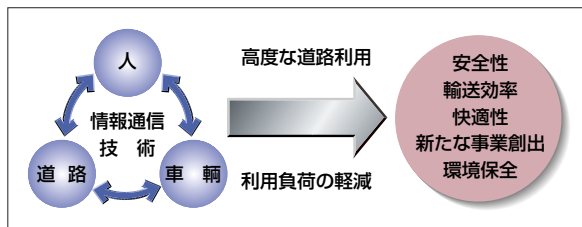
会議の行われたソウル市は、韓国の全人口の1/6が集中する人口1,073万人の大都市で、日本と時差はなく、札幌から2～3時間の距離にある隣国の首都である。



(株)シー・イー・サービス  
システム開発室 室長  
正岡 久明

## 2. ITSとは

ITS (Intelligent Transport Systems / 高度道路交通システム) は、「人」・「道路」・「車」を一体的システムとして捉えて、道路・交通の高度化・効率化を目指すもので、市民の生活を豊かで快適にする、産業革命に匹敵する技術革新として期待され、諸外国においても積極的な取り組みが行われている。



日本では、道路交通システム分野の国家的ビジョンとして、平成8年に「ITS全体構想」が示され、5省庁連携の下で実現への取り組みが進展している。  
(※ 5省庁＝警察庁、通産省、運輸省、郵政省、建設省)

## 3. 驚いたソウルの交通事情

ソウルを訪れて、まず驚いたことは、都市内の道路交通事情であった(仕事柄か?)。

1. 都心部の道路幅員は非常に広い(片側3～6車線)。そして、車があふれて慢性的な混雑状態である。
2. 多車線のため、多くの交差点で歩行者用の立体横断施設(アンダー)が設置されている。
3. また、交通容量をかせぐためか、左折(日本での右折)は禁止され、慣れるまでは結構不便である。

帰国後、韓国の交通事情を調べると、最近10年で自動車保有台数は10倍になったとのことである。

また、交通事故による死者数も多く、95年で1万3千人を超え、10万人当たりの死者数で比較すると、日本の2倍以上である(10万人当たり:韓国23人、日本10人)。

このような交通事情を抱えるソウルでは、道路交通諸問題解決の切札として、93年からITSプログラムに取組んでおり、今回の世界会議を契機として、一層の進展が図られるものと思われる。



喧騒の中にも活気が感じられたソウル市内

建設省ブース「スマートウェイ」を映像とパネルで展示  
ITS各種アプリケーションと道路インフラを統合し、基準化する計画は大きな反響を得た

#### 4. 盛況であったソウル大会

会議全体を通して感じたことは、各国のITSが具体化しつつあり、同時に、「標準化」「効用の評価」「地域に促したITS」などが活発に議論されていたことなどが印象に残った。

##### (E) オープニングセッション

韓国の金鐘泌首相が「21世紀に向けてITSが我々の生活をよりよいものにする」と確信している」と発表し会議の幕が開いた。

##### (F) プレナリーセッションー 3

ITSアメリカから「今までは夢物語を論じていれば良かったが、これからは実践の時代となった」と発表し、今回の会議全体の雰囲気象徴した。

##### (G) エグゼクティブセッションー 12

日本からは、5省庁から各々発表があり、現状の取り組みと展望について報告された。

##### (H) スペシャルセッションー 28

日本は、「ITSを用いた長野オリンピック道路交通管理」「法執行とITS」「日本のASV/AHS」などのセッションを主催し、特に「日本のASV/AHS」では、建設省が提案するスマートウェイ（ITS仕様の道路基準・制度づくり）の展望を大きく印象づけた。

##### (I) テクニカルセッションー 104

テクニカルセッションでは514件の発表があり、日本からは152件の報告があった。

この内、北海道からは、開発土木研究所から4編、北海道大学萩原先生のグループから3編の発表があり、北海道内におけるITSが、着実に進展していることをアピールした。

##### (J) クロージングセッション

世界会議のシンボルである“グローブ（地球儀）”が、次回開催国であるカナダに手渡され会議が終了した。

##### ○ 展示会ー 85 団体・企業

前回会議に比べ、欧米からの展示が少なかったが、参加者累計が2万4千人に達し非常に盛況であった。

#### 5. 進展する北海道地域ITS

世界ITS会議で北海道内から7編の報告があったように、道内におけるITSへの取り組みが進展している。

道内のITSの具体的な動向としては、北海道開発局開発土木研究所が中心となって、「ITS/Win 仮想研究所」や「寒地ITS研究会」が進められ、平成10年7月には「北海道における地域ITS構想」を叩き台として公表している。

本構想は、北海道地域のITS将来イメージを「交通事故、防災、地域活力、環境、北海道ライフ、ふゆ」の6つの柱を設定し、北海道地域ITS推進の方向性を示したものである。

また、平成11年3月5日には、VERTIS・札幌圏ITS推進フォーラム設立準備会の主催により、「ITSフォーラム札幌'99（北国の暮らしと交通～21世紀へのシナリオ）」が開催され、400名を超える参加者があり、北海道内の行政・企業のITSへの関心の高さが伺えた。

#### 6. おわりに

北海道地域は、積雪寒冷地特有の課題（滑りやすい雪氷 路面や吹雪による視程障害など）の厳しい道路環境が存在し、ITSの先進技術がもたらす安全走行支援や高度な情報提供により、冬期間の安全性・効率性が飛躍的に向上することが期待される。

また、北海道内の道路網は、広域かつ膨大であるため、ITS技術の活用で、維持管理の飛躍的効率化が期待される。

このように、北海道地域においては、ITSを推進すべき条件（必要性と効果）は揃っている。

また、建設分野は「建設（20世紀型）からマネジメント（21世紀型）」への転換が必然で、ITS技術が大きな役割を果たすものと考えられる。

以上のことから、北海道地域ITSが一層進展することを期待するとともに、今回の世界ITSソウル会議で得た情報が、今後、少しでも役立てば幸いである。



会場となったインターコンチネンタルソウル



展示会会場



展示会会場入口 (KOEX)



多くの人で賑わう韓国メーカーのブース



VERTIS(道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会)ブース